

2021（令和3）年度 調査研究 報告書

報告者	調査対象機関	報告内容
岐阜大学大学院 教育学研究科 2年 土岐市立土岐津中学校 教頭 片田 誠	広島県福山市立 鞆の浦学園	1 活動概要 2 小中一貫教育・義務教育学校に関する 観察／聴取／談話内容

1 はじめに

11月18日(木)に石川英志教授と共に、義務教育学校である広島県福山市立鞆の浦学園の公開研究会へ参加し、資料収集や聴き取りによる小中一貫教育、義務教育学校の計画・推進に関する調査研究補助を行った。

鞆の浦学園の西には小高い山が広がり、南には瀬戸内海、東には仙酔島などの島々が見えた。また、周辺には神社や寺、城跡等の様々な史跡が多く見られた。自然、歴史、伝統、文化に溢れる地域であることを体感できた。

福山駅からトモテツバスに乗車すると、乗客のほとんどが高齢者であった。約30分後に到着した学園最寄りのバス停から、学園まで行く途中に出会った人々も高齢者が多かった。この地域の少子高齢化や過疎化が進んでいる状況を把握できた。学園に通う子どもたちは、地域の未来を担う大切な存在であるのだろうと感じた。

2 活動概要

- ・公開授業 …第1～9学年，特別支援学級の教科等の公開授業を参観した。
- ・取組発表 …ICT時代における学校図書館の在り方について，取組の発表を聞いた。
- ・TOMOに学ぶ会 …各学年の代表児童生徒や学園教職員，参観者と共に，本時の授業や義務教育学校の取組について，協議した。



3 小中一貫教育・義務教育学校に関する観察／聴取／談話内容

(1) 教育目標，教育課程等

学校の教育目標を「郷土福山を愛し，心身ともにたくましく，意欲を持って主体的に学ぶ子どもの育成」とし，小中9年間を「4-3-2」に区分して，発達段階や系統的な学習内容を考慮した教育課程を編成していた。

特色ある教育活動として「鞆学」を位置付け，子どもたちが自らテーマを設定して，福山の自然，人，歴史，伝統，文化，産業等に触れながら，探究的な学習に取り組んでいた。



(2) 公開授業

どの授業も，子どもたちが主体的に発想し，仲間と共に創り出す展開となっていた。子どもたちは授業者の問いかけに対してよくつぶやき，「うーん，何て言ったらいいかなあ」と悩みながら仲間に説明する子の姿も見られた。

これは，育てたい子ども像の要素である「協働」「挑戦」「創造」を全教職員が共通理解している表れだと考えた。また，今回は見るができなかったが，チャレンジタイムのような学年を超えた異学年の学び合いを位置付けているため，下級生の手本や上級生への憧れ等によって相互により効果が生まれているのだろう。

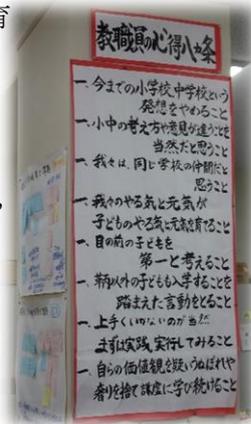
(3) TOMOに学ぶ会

前半は，代表児童生徒と直接対話する中で，義務教育学校のよさを聴取することができた。

3年生から運動会の踊りを教えてもらったら，上手に踊ることができるようになった。同じ学年の子に教えてもらうよりも，上手に教えてくれるので，教えてもらって練習することが楽しかった。(第2学年児童)

後半は，学園教職員も含めて参観者が10名ほどのグループに分かれて，小中一貫教育や義務教育学校に関して協議した。

私が一番印象に残った内容は，小中の文化の違いに対する教職員の意識改革である。広島県は岐阜県とは違い，小中をまたいだ人事は行われていないと教えていただいた。そのため，岐阜県以上に小中の教職員の意識を変えていくことは困難であると予測できる。しかし，学園教職員は，お互いのよさや強みを認める発言をしていた。右の写真は，学園職員室に掲示されていた「教職員の心得八ヶ条」である。ここに示されている言葉はどれも心に響き，教職員の意識に訴えかける内容になっている。このように，学校全体における日常の取組の積み重ねによって，小中の文化の違いに対する教職員の意識が変わり，「鞆の浦学園」という1つの学校が形成されているのだと理解した。



4 おわりに

今回の調査研究で得た内容については，私の勤務する土岐津中学校区の小中一貫教育推進体制を構築していく上で大変役立つと考える。また，市内の小中一貫教育校である濃南小・中学校の今後の取組の参考にもなる。生かしたい。